

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	染色実験	春日 泰浩	2単位 85時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
様々な染織加工方法を実習を通して学び、特殊加工で必要な工程と必要材料を学ぶ。各加工の特徴と生じる不具合を学び、企業で働いた際に提案できる人材を育てる。			
【講義概要】			
①特殊加工を施したサンプルを毎回制作、サンプル制作期間終了後ファイリングを行う。 ②ファイリングした加工方法の中から各自目指すテキスタイルをデザイン。3m長さ程度のオリジナルテキスタイルを制作。 ③制作した生地と使用場面・コンセプトをまとめたデータを制作。最終日プレゼンテーションを行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス		
2	デザイン画制作1		
3	デザイン画制作2		
4	デザイン画制作3		
5	綿・麻の加工1顔料プリント(白生地用・色生地用)生地持込みOK		
6	綿・麻の加工2発泡プリント パールプリント		
7	綿・麻の加工3箔プリント・フロッキープリント		
8	綿・麻の加工4抜染プリント(4-1)抜染生地を染める 白色抜染・着色抜染		
9	綿・麻の加工5抜染プリント(4-2)プリント→蒸し→洗い		
10	綿・麻の加工6防染プリント 白色防染・着色防染		
11	綿・ポリエステルの加工1オパール加工 無色オパール、着色オパール		
12	ポリエステルの加工1 熱可塑性、転写プリント		
13	しぼり染		
14	板締め		
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本としてプリント生地制作に必要な実体験を学ぶ。 実用的な生地の使われ方や身の回りにある製品から学ぶ。 講師はプリント工場勤務経験があり、実務経験に基づいてテキスタイルデザイナー養成に向けた授業を展開することが出来る。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	1年・前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	友禅実習Ⅰ	高橋 望	5単位 170時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
友禅の基本技術を学び友禅染の工程と図案制作を学ぶ			
【講義概要】			
授業時に配布するテキストを元に友禅の基本技術を解説、私用する糊や色を数値だけでなく体感で確認する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	サンプル制作 学校で用意した柄を生地に写し友禅の基本工程を実践して学ぶ。		
～	この課題を通して自分の手を使って基礎工程を学ぶことで、今後作品制作をする上でのスケジュール管理と		
12	完成までの工程をイメージすることができる。		
13	帯制作 オリジナルの図案を制作、5mの長さの友禅染め帯を作る。		
～	図案を徹底的に考え視覚化する、課題1に比べ長い生地制作を体験することで出来る事と出来ない事を体験し		
25	今後の作品制作に反映させる。		
26	古典模作 加賀友禅の作品の中から1点を選び模写を行う、古典の柄から技法や色の選択を学ぶ。		
～	古典の柄から色と技法を学ぶだけでなく想像を働かせ、お手本画面にない空間の想像と当時の色を		
32	思い描きながら作品制作をする。		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本として友禅生地制作に必要な実体験を学ぶ。 道具や材料の使い方を実践をとおして学ぶ。講師は友禅作家として多数の受賞歴があり、 講師経験も長いキャリアを持ち作家としての考えや作品を作る上で大切なことを教えながら授業を行うことが出来る。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	織実習Ⅰ	馬場美和子	5単位 170時間

【授業の到達目標及びテーマ】

織の基本技術を学び1枚の織生地が出来上がるまでの工程を学び用途を考える。企業に就職した際、織工場へ発注依頼ができるような人材を育てる。

【講義概要】

①織物三原組織(平織、斜文織、朱子織)を学ぶ ②幾何学と具象をペーパーデザインし、その中から1点選び綴れ織りで表現する。③チェックのデザイン画を制作、デザイン画を元に糸計算、糸染、糸セットを行いマフラーを製織する。

回	授業計画及び学習の内容
1	糸について 整経 糸染め準備
2	糸染め(シリヤス染料)
3	機がけ
4	製織 平織・綾織・トルコ朱子織
5	製織 ななこ織
6	製織 ワッフル
7	製織 吉野織
8	製織 ヘリンボーン
9	製織 オーバーショット
10	整経 機がけ
11	機がけ 半そうこう
12	製織
13	製織
14	製織
15	以下、厚地織物制作とマフラー制作を行う。

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点提出作品(提案)10点から成績評価を行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

織の基本工程や糸計算を解説。学生が各自糸セットと織り作業を行い織生地への理解を深めるようにする。道具や材料の使い方を実践をとおして学ぶ。講師は織作家として活躍しており、展示販売も頻繁に行っている。講師経験も長いキャリアを持ち販売する際の方法や自分の作品制作を通して学生に伝えながら授業を行う

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	1年・前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	アパレル企画	東 重美	4単位 125時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
企画の基本となるプランニング方法や資料請求のまとめ方を学ぶ。簡潔に事柄を伝えることを習得して、デザイナーとして必要なスキルを身に付ける。			
【講義概要】			
①企画書作成 テーマを選択して各自企画をまとめ企画書を作る。②マーケティングリサーチ リサーチした内容をまとめリサーチマップをつくる。③企画マップ作成 生地や写真を使い資料をまとめ企画マップをつくる。企画書に適した言葉使いは手法は日々変化する、雑誌やCMのキャッチコピーなどファッションだけでなくシャイの情勢などデザイナーに必要な事柄を意識しながらアンテナを広げる術を伝える			
回	授業計画及び学習の内容		
1	企画の立て方、企画書の作り方		
2	市場調査		
3	市場調査		
4	企画書作成		
5	企画書作成		
6	ブラッシュアップ		
7	企画書完成		
8	発表		
9	上記の作業を繰り返し行い、企画の立て方と考え方を身に付ける		
10			
11			
12			
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
配布したテキストを元に説明。繰り返し資料請求をまとめる作業を行い、最終作り上げた内容を授業内でプレゼンテーションを行う。 国内で行われている生地の展示会に訪問して実際のテキスタイル業務の内容を学ぶ			
実務経験が長く現在もデザイン現場で働いており、今の情報や仕事を伝えることが出来る。またサンプルも所持しており学生が制作したい衣服の要望に応えることができる。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	アクセサリー実習	堤嶋 俊彦	3単位 90時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
アクセサリーに関する基礎知識と実技を通して、立体感覚を養う。生地を使ったアクセサリーを制作して、他のテキスタイル作品とトータルデザイン感覚を養う。制作した作品は学校ブランド【志 (kokorozashi)】で販売を行う。			
【講義概要】			
授業時のスライド掲載をもとに解説。各課題を実際にこなす中で実際の制作方法を通して生地を使った応用基礎を学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1 リメイクブランドの会社設立、ブランドロゴ作成、ブランドコンセプト立案			
2 アクセサリー商品の企画デザイン立案、制作計画、プライス設定			
3 分解、パターン作成、裁断、縫製、組み立て(8回まで同内容)			
9 講評(個人でのプレゼンテーション)			
10 アクセサリーブランドの会社設立、ブランドロゴ作成、ブランドコンセプト立案			
11 アクセサリー商品の企画デザイン立案、制作計画、プライス設定			
12 パターン作成、裁断、縫製、組み立て(17回まで同内容)			
18 講評(チームでのプレゼンテーション)			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)20点、提出作品(作品点数)20点、提出作品(まとめ)30点、提出作品(提案)30点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と実習を交え授業を行い基礎力から応力を学ぶことが出来る。			
実務経験があり、現在も代表取締役兼デザイナーとして働いている。企画を物創りの視点と企画側の視点、両方から解説することが出来る。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	プリント実習 I	春日 泰浩	3単位 90時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
オリジナルで制作したデザイン画を生地にプリント。データ作成から版制作、生地を選定、プリントと仕上げまでを学ぶ。実際の生地にプリントすることで、プリント柄の見え方や製品になった際の不具合や色の選定を学ぶ。企業に就職した際、プリント工場へ発注依頼できるような人材を育てる。			
【講義概要】			
データ作成、版制作、プリント方法を解説。作業時における注意点を気を付けながら実習。 ①30cm×30cmのデザイン画(2色)を四方送りしたプリントを制作。 ②30cm×30cmのデザイン画(3色)をハーフステップしたプリントを制作または暖簾制作 各デザイン画とも市場調査と使用場面、コンセプトをまとめたデータを提出。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ハーフステップを利用したデザイン画をプリント。生地使用用途を決めてデザイン画作成		
2	デザイン画制作		
3	デザイン画制作		
4	デザイン画制作		
5	版下用データ制作		
6	版制作・製版		
7	版制作・製版		
8	色実験		
9	色実験		
10	捺染		
11	捺染		
12	整理加工		
13	使用用途をまとめマッピング		
14	使用用途をまとめマッピング		
15	プレゼンテーション		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点、(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
最初から最後まで自分の手を使って作業します。自分の手を使い体験することで生きた知識として今後活用することができます。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	デザイン総合学科 昼間部(2年制)	2025年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	卒業制作	春日泰浩	15単位 455時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
教員から提案された課題でなく自分でテーマを見つけ、作品制作を行うことで洗練された作品コンセプトを作る。作品制作だけでなくプレゼンテーション、什器も含めた展示方法を考え発表することで作品制作の行く末や学校外からの評価を体験。卒業してからの活動手本として、この授業を活用する。			
【講義概要】			
スケジュール概要を説明。各自作品制作。後期半年間の制作に見合う作品を提出。 プリント・織生地・友禅等デザイン違いで3点以上。 きもの場合は、完成形を1点以上。 コンセプトをまとめたデータ等、展示用物品の制作。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス		
2	スケジュール表作成		
3	デザイン提案		
4	デザイン提案		
5	デザイン提案		
6	実験		
7	実験		
8	実験		
9	本番制作		
10	本番制作		
11	本番制作		
12	展示方法を考える		
13	ポップ制作		
14	展示		
15	プレゼンテーション		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)10点、提出作品(作品点数)70点、提出作品(まとめ方)10点 提出作品(提案)10点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
スケジュール概要、展示点数等を初日授業で告知。作品コンセプトを考え、スケジュールを提出。実験、修正を繰り返し本番用テキスタイルを制作。シャツやバッグといった製品提案の場合は制作した生地を裁断縫製して製品化する			
担当教員は婦人服企画職とプリント工場で働いていた実務経験があり、実技面と展示面の両方を教えることができる			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	外国語I	岡田 謙吾	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
本授業では英語の基本事項に焦点をあてながら、英語に慣れ親しみ、英語学習への動機付けを目指す。			
【講義概要】			
主に英文法と会話表現の中で、比較的やさしく、かつ実用的なテーマを毎回の授業で設定し、授業を行う。受講者の状況、希望により、臨機応変な授業内容を心がけたい。			
回	授業計画及び学習の内容(1学期分のみ)		
1	基礎的な単語を覚える		
2	動詞の変化について		
3	音読 I		
4	音読 II		
5	ディクテーション I		
6	ディクテーション II		
7	重要表現について I		
8	重要表現について II		
9	会話のロールプレイング I		
10	会話のロールプレイング II		
11	問題演習 I		
12	問題演習 II		
13	問題演習 III		
14	問題演習 IV		
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
時間の半分はパワーポイント、講師作成のレジュメ、板書などを使い、質疑を交えながら講義形式で進める。受講者はメモをとりながら、適宜質問にも答えてもらう。残りの半分は問題演習や会話のロールプレイング、音読やディクテーションなどを通じて、実践力を養い、理解を能動的に深められるようにする。状況によっては重要表現の暗記や読解問題にも併せて取り組みたい。適宜小テストを実施し、理解の定着を図る。			
証券会社での実務経験をもとに豊富な知識と巧みな話術で楽しい授業ができる教員である。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	政治経済Ⅰ	関谷俊郁	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本の政治および経済の基礎を学び、社会人としての必要最低限な政治学・経済学の知識を習得する。			
【講義概要】			
毎週の授業は、出席者が「前週までの授業の内容を基本的に理解している」ことを前提に行われるので、授業中に出てきた政治や経済の用語のうち、よく分からないものがあれば、翌週の授業の前までにテキストを参照し、理解しておくこと。			
回	授業計画及び学習の内容(1学期分のみ)		
1	経済体制		
2	価格と市場		
3	景気変動		
4	経済成長		
5	経済政策		
6	国民経済と国際経済		
7	民主主義の原理		
8	議会と政府		
9	選挙と政治参加		
10	憲法と人権		
11	中央と地方		
12			
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)30点、期末試験70点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
時間の半分はパワーポイント、講師作成のレジュメ、板書などを使い、質疑を交えながら講義形式で進める。毎回テストやレポート課題を出す、しっかりやることで理解の定着を図る。			
防衛省での勤務経験を活かし多角的な視点で論理的に考える政治経済の講義を展開			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ビジネスマナーⅠ・Ⅱ	吉川 知子	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 社会での一般的な社会常識を理解し、「良好な人間関係を築くために必要なマナー」の基本を学ぶ。 2. コミュニケーションの特徴を理解し、心を伝えるための表現力を身につける。 3. 「知っている・わかっている」から「普通にできる」ようになる。			
【講義概要】			
学んだ内容をその場で実践しながら理解していくので、授業は休まず出席し、ロールプレイングでは前向きに取り組むこと。スーツを着用の指示があった場合はスーツで受講すること。提出課題は必ず提出すること。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い		
2	挨拶のポイントと場面にあった挨拶言葉		
3	第一印象の重要性、相手に与える自分の印象		
4	視覚に入る情報～身だしなみ／面接試験でのスーツの着方／基本的動作(姿勢・お辞儀・歩き方)／表情		
5	聴覚に入る情報～敬語の基本／感じの良い話し方／発音・活舌トレーニング		
6	指示の受け方・報告の仕方		
7	電話応対／受け方・かけ方		
8	名刺交換／席次／エレベーター乗降り／ドアの開閉		
9	履歴書のポイントと注意点、書き方		
10	ビジネスメールの種類とポイント、書き方		
11	指示の受け方～メモをとる、復唱確認の話し方		
12	報告の仕方～話し方		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
社会人になるための基本を全て教えます。これが全てできれば社会人として恥ずかしくないというレベルまで持っていきます。			
企業での人事およびビジネスマナーを長年担当してきたビジネスマナーのプロ			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	異文化理解Ⅰ・Ⅱ	関谷 俊郁	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
社会で、また国際的に様々な文化的背景を持った人々とのコミュニケーションの仕方について学ぶ。 また、企業などの組織では、企業ごとの企業文化や企業風土があるので、目には見えないコミュニケーションの仕方についても学んでいく。			
【講義概要】			
様々な文化におけるコミュニケーションの仕方を学び、異文化間でよくおこる誤解などをケーススタディを通して学んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	世界における様々な文化について理解する		
2	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース1)		
3	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース2)		
4	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース3)		
5	ビジネスの現場において文化圏の違いが引き起こす誤解を理解する(ケース4)		
6	ポジティブフィードバックの文化		
7	ネガティブフィードバックの文化		
8	ハイコンテクストなコミュニケーションをする文化圏		
9	ローコンテクストなコミュニケーションをする文化圏		
10	コミュニケーション演習1		
11	コミュニケーション演習2		
12	コミュニケーション演習3		
13	コミュニケーション演習4		
14	フィードバック1		
15	フィードバック2		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
学生同士の積極的な参加とグループワークを特徴としており、アクティブラーニングを意識した授業を展開する。			
防衛省での勤務経験を活かし多角的な視点で論理的に考える政治経済の講義を展開			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	数学I/Ⅱ	岡田 謙吾	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
数学Ⅰ 数学Aを確実にマスターする			
【講義概要】			
『数Aの場合の数と確率のになてなへ』(※印刷で対応) 『数学Ⅰ・A標準問題精講 改訂版』 『数学の公式・定理・決まりごとがまとめてわかる事典』これらのテキストを使って数学を理解する			
回	授業計画及び学習の内容		
1	数と式1		
2	数と式2		
3	2次関数1		
4	2次関数2		
5	図形と計量1		
6	図形と計量2		
7	場合の数と確率1		
8	場合の数と確率2		
9	図形の性質1		
10	図形の性質2		
11	整数の性質1		
12	整数の性質2		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
数学的思考や数の魅力、数式の魅力について展開。とにかく数学嫌いにならないようやります。			
商品取引やデリバティブ取引など市場経験を活かし、とにかく数字と数学の重要性を熟知しているプロ			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際教養学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	国際経営I/Ⅱ	関谷 俊郁	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本企業、および世界の企業のケーススタディを通して経営における課題と、その対処および解決策について理解する。また領域科学としての経営学という学問を理解する。更に最近問題となっているダーバースティに関してエリン・メイヤーの『異文化理解力』を使って学生自身の異文化体験を通じてコミュニケーションのむずかしさについて考えていく。			
【講義概要】			
企業経営における様々な問題点を取り上げながら組織についての考察をする。 また組織の円滑な運営におけるコミュニケーションの重要性について理解を深める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	経営学の必要性について		
2	正しい現実の把握と意志決定		
3	企業とは何か		
4	大企業の誕生		
5	雇用の安定と社会的利益		
6	イノベーション時代のモチベーション		
7	楽しく働くために		
8	優れたリーダーの条件		
9	1＋1を2以上にする組織		
10	経営戦略策定のための基本的な理論枠組とツール		
11	古典的戦略と経営戦略		
12	IT革命とイノベーションの時代		
13	教養としての経営学		
14	ナレッジ・マネジメント		
15	人間を中心に据える経営学		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
領域科学としての経営学という学問を理解する。そのうえで新聞も利用しながら時事的な企業のトピックを扱いながら現代社会における主要なプレイヤーである企業や組織について関心を持たせ理解を深める。			
防衛省での勤務経験を活かし多角的な視点で論理的に考える政治経済の講義を展開			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	外国語I	岡田 謙吾	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
本授業では英語の基本事項に焦点をあてながら、英語に慣れ親しみ、英語学習への動機付けを目指す。			
【講義概要】			
主に英文法と会話表現の中で、比較的やさしく、かつ実用的なテーマを毎回の授業で設定し、授業を行う。受講者の状況、希望により、臨機応変な授業内容を心がけたい。			
回	授業計画及び学習の内容(1学期分のみ)		
1	基礎的な単語を覚える		
2	動詞の変化について		
3	音読 I		
4	音読 II		
5	ディクテーション I		
6	ディクテーション II		
7	重要表現について I		
8	重要表現について II		
9	会話のロールプレイング I		
10	会話のロールプレイング II		
11	問題演習 I		
12	問題演習 II		
13	問題演習 III		
14	問題演習 IV		
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
時間の半分はパワーポイント、講師作成のレジュメ、板書などを使い、質疑を交えながら講義形式で進める。受講者はメモをとりながら、適宜質問にも答えてもらう。残りの半分は問題演習や会話のロールプレイング、音読やディクテーションなどを通じて、実践力を養い、理解を能動的に深められるようにする。状況によっては重要表現の暗記や読解問題にも併せて取り組む。適宜小テストを実施し、理解の定着も図る。			
商品取引やデリバティブ取引など市場経験を活かし、あらゆる分野に精通している国際派の教員である。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	国際ビジネスI	吉川 知子	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
社会人としての基礎から国際的なビジネスシーンにおける基礎的なスキルまで身に着ける			
【講義概要】			
日本社会での一般的な社会常識を理解し、「良好な人間関係を築くために必要なマナー」の基本を学ぶ。 母国とは違う日本のコミュニケーションの特徴を理解し、心を伝えるための表現力を身につける。 「知っている・わかっている」から「普通にできる」ようになる。			
回	授業計画及び学習の内容(1学期分のみ)		
1	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い		
2	挨拶のポイントと場面にあった挨拶言葉		
3	第一印象の重要性、相手に与える自分の印象		
4	視覚に入る情報～身だしなみ／面接試験でのスーツの着方／基本的動作(姿勢・お辞儀・歩き方)／表情		
5	聴覚に入る情報～敬語の基本／感じの良い話し方／発音・活舌トレーニング		
6	指示の受け方・報告の仕方		
7	電話対応／受け方・かけ方		
8	名刺交換／席次／エレベーター乗降り／ドアの開閉		
9	履歴書のポイントと注意点、書き方		
10	ビジネスメールの種類とポイント、書き方		
11	指示の受け方～メモをとる、復唱確認の話し方		
12	報告の仕方～話し方		
13	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い(演習1)		
14	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い(演習2)		
15	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い(演習3)		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)30点、期末試験70点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と実践、演習を繰り返すことで社会人として恥ずかしくない態度が身に着くように指導する。			
様々な企業でのビジネスマナー等研修のプロ			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	数学I	中山 広樹	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
数学ⅡBを理解し、マスターすることを目標とする。			
【講義概要】			
数学ⅡBを中心に進める。			
回	授業計画及び学習の内容(1学期分のみ)		
1	式と証明 1		
2	式と証明 2		
3	三角関数 1		
4	三角関数 2		
5	指数関数・対数関数 1		
6	指数関数・対数関数 2		
7	微分法・積分法 1		
8	微分法・積分法 2		
9	ベクトル 1		
10	ベクトル 2		
11	数列 1		
12	数列 2		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式で実施する。			
建設会社での構造計算、安全性の数値計算等の業務を通して培った数学力を活かし、実務的観点から理論を体系的に説明する、わかりやすい講義のできる教員です。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程	国際情報学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	情報処理Ⅰ	中山 広樹	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
情報処理全般について理解し、情報処理技術者試験合格を目指す。			
【講義概要】			
情報処理の基礎から応用まで展開。			
回	授業計画及び学習の内容(1学期分のみ)		
1	データベース方式、設計、操作、応用、トランザクション処理		
2	ネットワーク方式、データ通信と制御		
3	通信プロトコル、ネットワーク管理、応用		
4	情報セキュリティ		
5	情報セキュリティ管理		
6	セキュリティ技術評価		
7	情報セキュリティ対策		
8	セキュリティ実装技術		
9	システム開発技術1		
10	システム開発技術2		
11	ソフトウェア開発管理技術1		
12	ソフトウェア開発管理技術2		
13	サービスマネジメント1		
14	サービスマネジメント2		
15	システム監査		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式がメインだが、試験についても随時紹介して対策をしていく。			
建設会社での構造計算、安全性の数値計算等のシステム開発業務を通して培った情報処理能力を活かし、仕事での実践的なポイントを指導します。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	外国語Ⅰ・Ⅱ	下田 智	2単位 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ハングルの読み書きを習得し、基礎的な文法と語彙を身につけることを目指します。日常生活に即した場面(挨拶、自己紹介、道案内など)を通じて、基礎的な会話ができる語学力を養うとともに、短い文章や簡単な作文を通じて基礎的な文章作成力も育成します。また韓国の文化や習慣についても基礎的な理解を深め、言語と文化の両面から韓国の理解を深めることを目的とします。

【講義概要】

日常生活に即した場面の会話を通じて、基礎的な文法と語彙を習得します。学んだ表現を用いた会話練習により、実践的な会話力を養成します。また、自らその場面における会話を作成し応用することで、表現力を高めます。さらに、韓国の文化や習慣に関する題材を用いた文章作成を行い、文章表現力も身につけます。

回	授業計画及び学習の内容
1	ハングルの読み書き(母音と子音)
2	ハングルの読み書き(合成母音)
3	ハングルの読み書き(パッチム)
4	数字(1)
5	挨拶 / 文法・語彙: 입니다, 입니까 / 은(는) / 会話: 挨拶
6	自己紹介 / 文法・語彙: 이(가) 아닙니다 / 会話: 自己紹介 / 文章作成: 自己紹介文
7	学校生活 / 文法・語彙: 습니다, 습니까 / 이(가) / 을(를) / 会話: 学校生活について
8	日にち / 文法・語彙: 날짜 / 에 / 会話: 授業の日程 / 文章作成: サークル案内文
9	家 / 文法・語彙: 이, 그, 저 / 에 / 하고, 과(와) / 会話: 寮の施設について
10	道案内 / 文法・語彙: (으)세요 / (으)로 / 会話: 道案内 / 文章作成: 私の夢の家
11	質問 / 文法・語彙: 数字(2) / 시간 / (에) / 会話: 質問
12	1日の生活 / 文法・語彙: 부터~까지 / 아/어요 / 会話: 1日の日課 / 文章作成: 日課
13	週末 / 文法・語彙: 에서 / 안 / 으 탈락 / 会話: 週末の活動
14	旅行 / 文法・語彙: -았/었- / 도 / 会話: 旅行について 文章作成: 旅行日記
15	家族 / 文法・語彙: 나이 / 은(는) / -(으)시- / ㄹ 탈락 / 만 / 会話: 家族紹介

【成績評価方法】

学生の評価は以下の要素を総合的に判断して行う。・授業への参加状況および学習態度(20%)・各回の課題の提出状況および達成度(20%)・小テストおよび定期試験の成績(60%)

【授業の特徴・形式と教員紹介】

本授業では、文法・語彙のインプットを行った後、それをもとに会話文を作成し、ロールプレイなどの演習を通じて実践的な会話表現力を養成します。授業は基本的に韓国語で行いますが、学生の理解度に応じて柔軟に対応します。

韓国に語学留学し、韓国企業にて勤務経験のある韓国語教育のスペシャリスト。

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	特別演習Ⅰ・Ⅱ	横山 信午	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
基本操作(カット・テロップ・BGM)を習得し、SNS用動画を制作できるレベルを目指します。次に表現力や構成力を高め、最終的に仕事に活かせる作品制作やポートフォリオ作成をゴールとします。又、個々の表現力・発信力及びメディアリテラシーの育成。			
【講義概要】			
編集ソフトの基本操作から始め、カット編集、テロップ挿入、BGMや効果音の追加、簡単なトランジションの使い方を学びます。実践を通じて、短い動画を自力で完成させることを目標とします。更に、映像制作全般(企画・構成・脚本～撮影・編集・納品)における知識及びスキルの習得。座学＋グループディスカッションによりチームワーク・協調性			
回	授業計画及び学習の内容		
1	映像編集の基本とソフトの導入(映像編集の基本知識・編集ソフトのインストールと基本操作の紹介)		
2	素材の取り込みと整理(動画、音声、画像素材のインポート方法)		
3	カット編集と基本操作(不要部分のカット、削除・編集の基本ルール尺、テンポ、リズム)		
4	トランジションの使い方(トランジション(フェード・スライドなど)の挿入方法)		
5	テロップと字幕の追加(テロップ(文字)の挿入方法・フォント選びとデザインの基本)		
6	音声編集の基本(BGMと効果音の挿入・音量調整とフェードイン・フェードアウト)		
7	カラー補正と色調整(明るさ、コントラストの調整・ホワイトバランス、露出の調整・LUTの使い方)		
8	エフェクトの活用(映像エフェクト(ぼかし、カラーエフェクトなど)の使い方・過度なエフェクトの注意点)		
9	モーショングラフィックスの基本(簡単なアニメーション効果を学ぶタイトル、ロゴ)		
10	映像の構成とストーリーボード作成(映像構成の基本ルール・ストーリーボードとカットの流れを計画)		
11	効果的なBGMと音声調整(BGMの選び方と映像とのマッチング・音声ノイズの除去とクリーンアップ)		
12	短尺動画制作とSNS向け編集(短い動画の作り方とテンポの重要性・フィルター、エフェクト等)		
13	書き出しとエクスポート設定(書き出し(エクスポート)の基本設定・フォーマットや解像度の選択)		
14	プロジェクト全体のレビューとフィードバック(他の生徒と作品を見比べて改善点を探る)		
15	ポートフォリオ制作とまとめ(映像作品をポートフォリオとして整理・自分の得意な編集スタイルの発見)		
【成績評価方法】			
実践的な課題を基に評価します。評価項目は、基本操作(カット、テロップ、音声編集)の習熟度、創造性、作品の構成力、タイムライン管理のスムーズさ、納期遵守の実績。また、授業ごとのフィードバックを通じて、技術と表現力の向上を確認。最終的にはポートフォリオ制作を評価の基準とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基礎から応用まで段階的に学べる点です。まず、編集ソフトの基本操作を習得し、次第に創造的な表現力や編集技術を磨きます。実践を重視し、短い動画作成や課題を通じて、即戦力を養います。最後には、自分のポートフォリオを作成し、実際の制作現場に近い環境で学ぶことが特徴。			
テレビ制作会社や映像制作会社で勤務し、映像制作のスペシャリストとして活躍中。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2025年度	2年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	特別演習Ⅲ・Ⅳ	松原 敦	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
動画制作のツールとなる「Adobe After Effects」をつかって、動画制作の基本や考え方、作り方を学ぶ。また、動画(movie)の基礎知識や、業界の現状などを知り、今後の制作やエンタメ業界への就職などを目標として知識や考え方を知る。			
【講義概要】			
●基本として使うアプリケーションは「Adobe AfterEffects」 ●講義はおおむね「hands-on」スタイルで行う ●操作の様子をみながら、一緒に操作をして、作業の内容を覚える ●基本「動画編集初心者」向けに進めてゆきますが、状況によっては変更もある			
回	授業計画及び学習の内容		
1	授業ガイダンス&個別ヒアリング 授業の内容説明と今後のスケジュール 希望調査など		
2	色々な動画を観て研究あるいは考察とディスカッション		
3	After Effects を使った「動画作成&編集」の練習 その1 インターフェイスや使い方		
4	After Effects を使った「動画作成&編集」の練習 その2 簡単なアニメーション&編集		
5	After Effects を使った「動画作成&編集」の練習 その3 書き出しや保存の仕方		
6	After Effects を使った「動画作成&編集」の練習 その4 短い動画作品を作ってみよう		
7	個人ごとのヒアリングとテキスト提出・高校生向けの動画制作準備 役割分担作業		
8	高校生向け動画制作・撮影や編集など各人の役割に合わせて作業する		
9	高校生向け動画制作・撮影や編集など各人の役割に合わせて作業する		
10	高校生向け動画制作 初号完成予定 ▶Ⅱの後修正からフィニッシュへ		
11	高校生向け動画の完成確認 ▶映像の座学 映画のキホンや「撮影」などの豆知識		
12	動画へのエフェクト練習 その1 前期課題提示		
13	動画へのエフェクト練習 その2 前期課題作成開始		
14	前期課題作成		
15	前期課題提出		
【成績評価方法】			
授業中の小課題の提出状況と、最終課題の提出・その内容 80点			
出席率と授業中の態度など 20点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
動画作成ツールとしてのAfter Effectsを使用した実習授業。座学として動画・ムービーなどの基礎知識や、映像業界の現状や就職先としての展望などを伝える 中国河北省・河北美術大学／客員講師 東放学園音響専門学校/音響技術科 非常勤講師 東洋美術学校/イラストレーション科 非常勤講師 日本映画テレビ技術協会会員 ナショナルジオグラフィック協会会員 テアトルアカデミー所属 日本イラストレーション協会会員 動画編集の業界で活躍しているプロフェッショナル。			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	ビジネスマナーⅠ	吉川 知子	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 社会での一般的な社会常識を理解し、「良好な人間関係を築くために必要なマナー」の基本を学ぶ。 2. コミュニケーションの特徴を理解し、心を伝えるための表現力を身につける。 3. 「知っている・わかっている」から「普通にできる」ようになる。			
【講義概要】			
学んだ内容をその場で実践しながら理解していくので、授業は休まず出席し、ロールプレイングでは前向きに取り組むこと。スーツを着用の指示があった場合はスーツで受講すること。提出課題は必ず提出すること。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本のコミュニケーションと海外のコミュニケーションの違い		
2	挨拶のポイントと場面にあった挨拶言葉		
3	第一印象の重要性、相手に与える自分の印象		
4	視覚に入る情報～身だしなみ／面接試験でのスーツの着方／基本的動作(姿勢・お辞儀・歩き方)／表情		
5	聴覚に入る情報～敬語の基本／感じの良い話し方／発音・活舌トレーニング		
6	指示の受け方・報告の仕方		
7	電話応対／受け方・かけ方		
8	名刺交換／席次／エレベーター乗降り／ドアの開閉		
9	履歴書のポイントと注意点、書き方		
10	ビジネスメールの種類とポイント、書き方		
11	指示の受け方～メモをとる、復唱確認の話し方		
12	報告の仕方～話し方		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。出席率(態度)50点、期末試験50点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
社会人になるための基本を全て教えます。これが全てできれば社会人として恥ずかしくないというレベルまで持っていきます。			
企業での人事およびビジネスマナーを長年担当してきたビジネスマナーのプロ			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2025年度	1年・前期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	就職対策Ⅰ・Ⅱ	木村 直哉	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
eスポーツを通じてコミュニケーション能力(協調性)や自ら学ぶ力(自主性)を身につけることを目的とする。eスポーツとは何かを学び、この業界で成功するための技術、知識を得ることを目的とする。			
【講義概要】			
eスポーツ業界のことについての講義を行う。生徒がモチベーションのあるeスポーツタイトルを目標をもってプレイしてもらい、自己フィードバックさせる。それについての効率化、最適化を講師が行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	eスポーツのキャリアについて		
2	目標の立て方、目標設定		
3	eスポーツの世界において必要な技術、資格など		
4	SNSの運用方法		
5	中間目標フィードバック		
6	メンタル管理、モチベーション管理		
7	eスポーツドキュメンタリー視聴		
8	各自自己練習		
9	各自自己練習		
10	各自自己練習		
11	各自自己練習		
12	各自自己練習		
13	予備日		
14	予備日		
15	予備日		
【成績評価方法】			
出席点40%、平常点10%(授業内でのプレイ中に率先してコミュニケーションをとれているか)、 定期試験(実技)50%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には実技形式がメインとなるが、適宜スライドを用いた座学も行う。元League of Legendsプロゲーマーや、イベント運営チーム、チームマネージャーなどの経験を持つ講師によるeスポーツ全般の幅広い授業を展開。 元e-sportsプレイヤーで現在は高等学校や専門学校でe-sportsの講師として活躍中			

早稲田国際ビジネスカレッジ

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科(2年制)	2025年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	パソコンⅠ・Ⅱ	野澤珠樹	2単位 時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ITや経営についての学習を通して、ITパスポートや基本情報技術者試験合格に必要な知識の習得を目指す。			
【講義概要】			
ストラテジ系(経営全般)・マネジメント系(IT管理)・テクノロジー系(IT技術)などの学習を通して、IT・経営全般に関する理解を深めていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Javaに触れてみよう、Paiza io の使い方		
2	プログラムで計算を行う、データの種類		
3	変数とは？、文字列操作		
4	配列、乱数を使う		
5	プログラムの基本		
6	アルゴリズムの基本		
7	選択処理(if文とは)		
8	繰り返し処理(for文、while文)		
9	メソッド(関数)とは		
10	オブジェクト指向、インスタンスについて		
11	コンストラクタ、カプセル化		
12	継承、ポリモーフィズム		
13	抽象クラス、インターフェース		
14	前期のまとめ、課題についての説明		
15	課題作成		
【成績評価方法】			
課題を提出してもらいそのレベルで評価を行います。授業に対する姿勢や出席率なども加味します。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
プログラミングの実習を中心に行い、説明を丁寧に行います。エンジニア歴25年、IT講師歴15年のIT講師です。プログラミング言語は、Java、C言語、Pythonなど対応しています。			
IT教育における業界で活躍しているプロフェッショナル。			